



# 01 計画の背景と目的

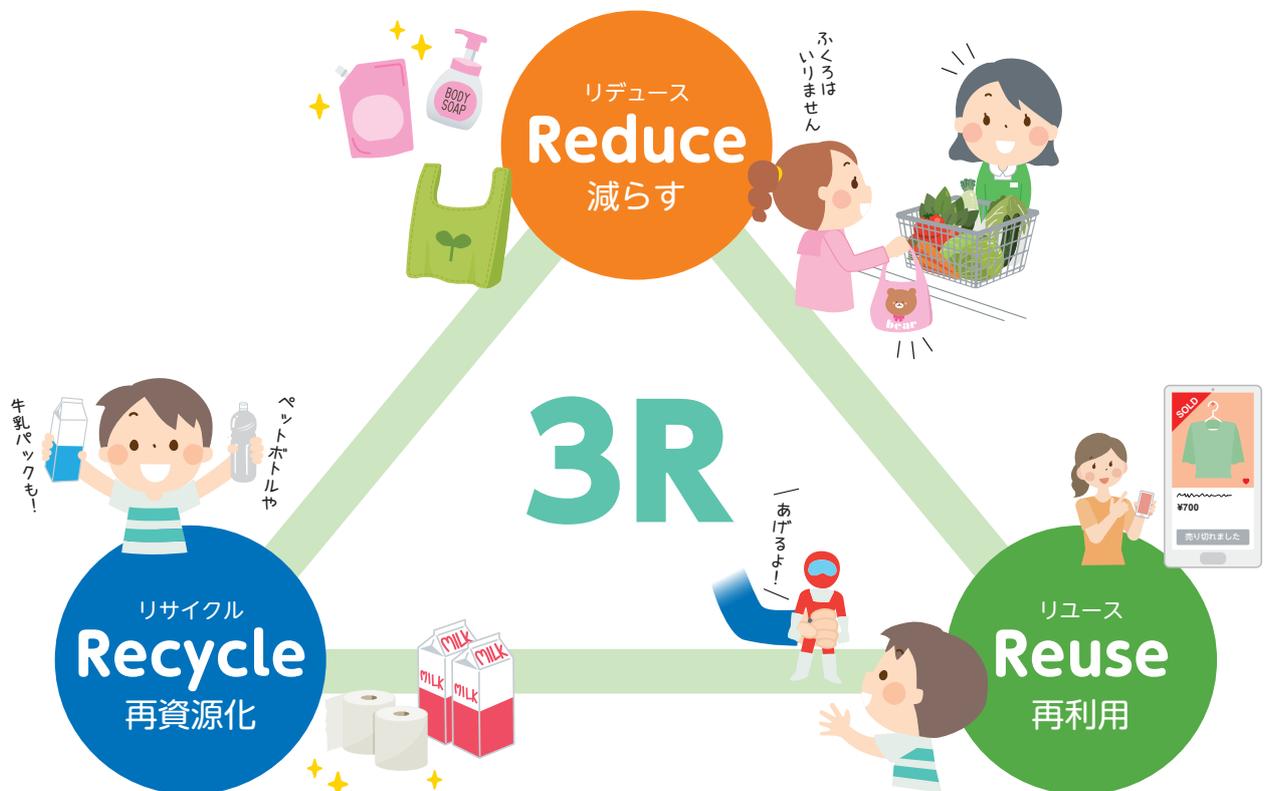
世界的に持続可能な社会の構築に向けた動きが加速する中で、廃棄物処理を取り巻く状況も大きく変化しています。とくに、プラスチックごみによる海洋汚染や食品ロス問題、地震や台風などの自然災害発生時の災害廃棄物の処理、さらには新型コロナウイルス感染症などの感染症流行下における安定的な廃棄物処理体制の構築は早急の課題となっています。

「第4期ふじみ野市一般廃棄物処理基本計画」では、持続可能な開発目標“SDGs”の考え方を取り入れ、廃棄物に関わる食品ロスやプラスチック資源などをはじめとする問題の解決や持続可能な社会の実現に向けた新しい施策を策定しました。



## 02 基本理念

未来へつなぐ 資源の環(わ) 持続可能なまち ふじみ野

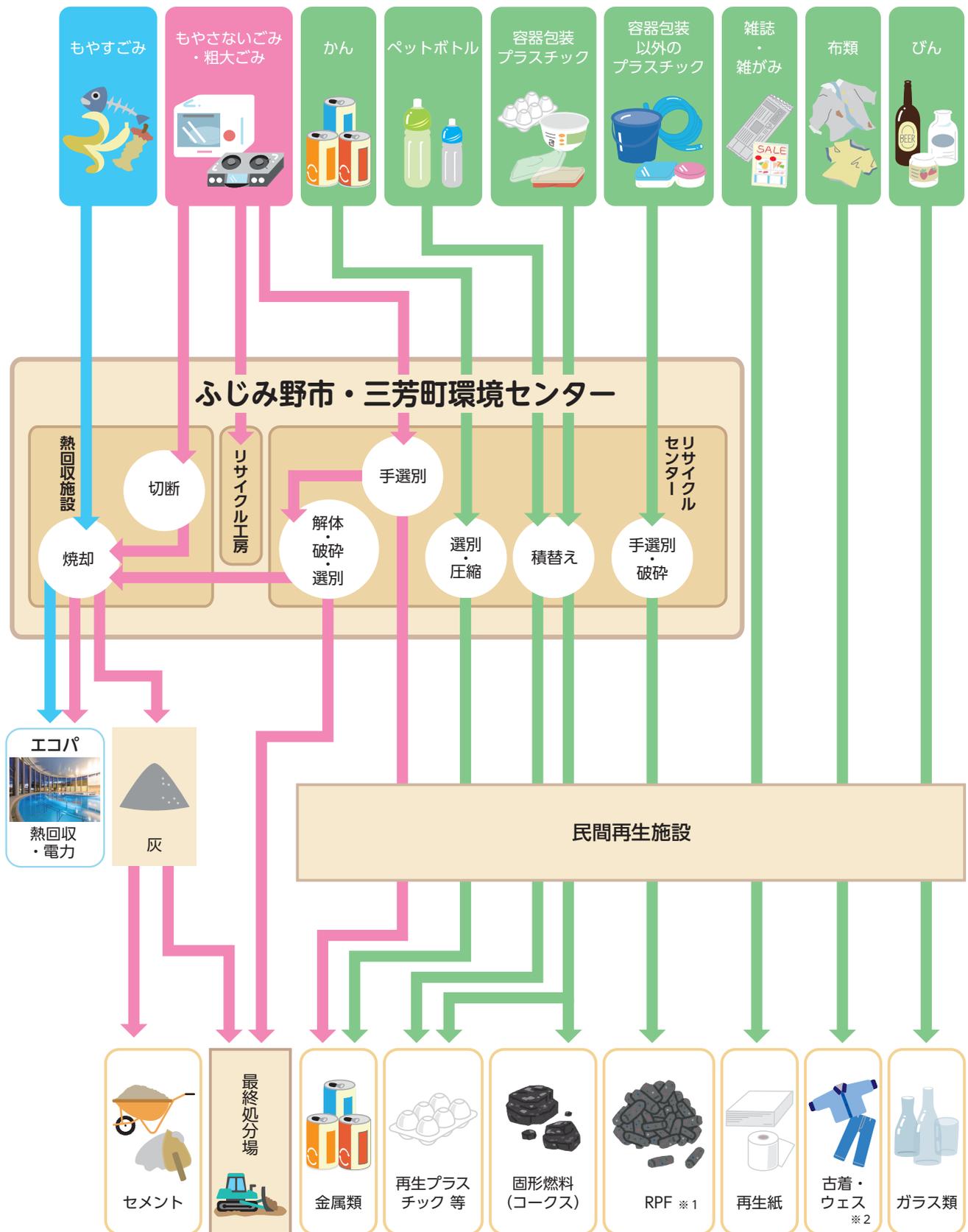


市民・事業者・市の三者が、ごみの分別や3R(リデュース、リユース、リサイクル)などの活動に協働して取り組み、限りある資源を循環的に活用することで、次世代までつづく“環(わ)”をつなぎ、みんなが安心・安全に暮らせる持続可能なまちを目指します。

# 03

# ごみ処理フローチャート

リサイクルの工程をわかりやすくするために、一部の分別区分や処理工程を省略しています。



※1 RPF：マテリアルリサイクルが困難な古紙及び廃プラスチック類を主原料とした固形燃料です。  
 ※2 ウェス：古布などをリサイクルして機械などの清掃に使う布切れのことです。

# 04 廃棄物処理に関する動向

## ●SDGs (持続可能な開発目標)

SDGs (エスディーゼーズ) とは、Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略称で、平成27年(2015年)の国連サミットで採択された、令和12年(2030年)までの国際社会共通の目標です。17のゴール(目標)と169のターゲット(具体的な達成基準)で構成され、地球上の「誰一人取り残さない」社会の実現を目指しています。

本計画でも、SDGsの「持続可能」という考え方にに基づき、ごみが「資源」として循環するまちを目指していく必要があります。

### 本計画に関連する主なゴール



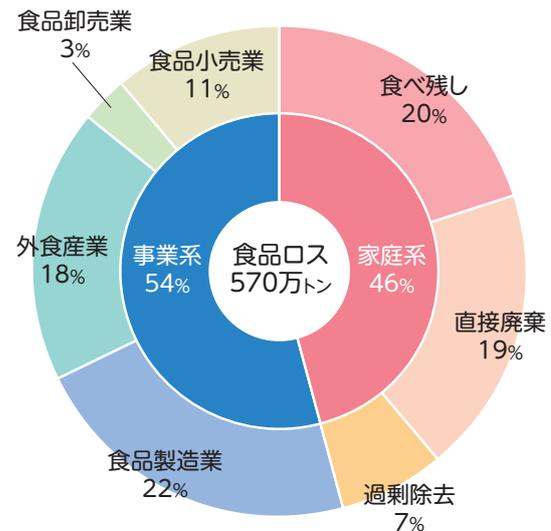
## ●食品ロスの現状

食品ロスとは、まだ食べられるのに廃棄される食品のことです。

日本では、1年間に570万トンの食品ロスが発生しており、毎年10kgのお米が5億7千万袋分捨てられていることとなります。そのうち46%が家庭から、54%が事業者から発生しています。

家庭からの食品ロスでは「食べ残し」、事業者では「食品製造業」次に「外食産業」が最も多いと推計されています。

(農林水産省及び環境省、令和元年度(2019年)推計値)

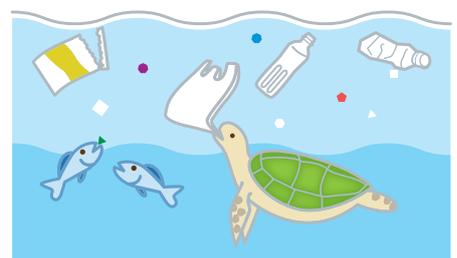


## ●プラスチックごみ問題

私たちが暮らしの中で使っているプラスチックは、ポイ捨てなどのさまざまな経路から自然の中に入り込んでいます。とくに、川や海に運ばれたプラスチックによる海洋汚染が世界的な問題になっており、海洋中で微細化した「マイクロプラスチック」が世界中の魚や海鳥などの海洋生物の体内から発見されています。

また、令和元年(2019年)5月に策定されたプラスチック資源循環戦略では、ワンウェイプラスチックの使用の削減やプラスチックの分別・リサイクルなどに取組むことで、プラスチックを取り巻く環境問題や資源問題を解決し、持続可能な社会の構築を目指しています。

私たちは「使い捨てプラスチックをできるだけ使わない」「くり返し長く使う」「きちんと分別する」ことで、プラスチックが引き起こす問題の解決に貢献することができます。



# 05 施策の体系

計画の基本理念

未来へつなぐ 資源の環(わ) 持続可能なまち ふじみ野

## 基本方針1 発生抑制を中心とした3Rの推進

### 施策1 食品ロスの削減

- 1-1 食品ロスの削減のための啓発
- 1-2 フードドライブ活動の推進
- 1-3 食品ロス発生量の実態調査の実施

### 施策2 環境教育・環境学習

- 2-1 市民への環境教育・環境学習
- 2-2 事業者への指導

### 施策3 発生抑制・排出抑制

- 3-1 プラスチック削減への取組み
- 3-2 ごみの減量化の推進

### 施策4 収集・運搬

- 4-1 ごみの集積所の環境の維持
- 4-2 ごみの排出が困難な方への対応
- 4-3 危険ごみへの対策の実施
- 4-4 適正排出・適正負担の検討

## 基本方針2 持続可能な資源循環システムの構築

### 施策1 資源循環システムの構築

- 1-1 市職員のごみの減量・資源化に対する意識の向上
- 1-2 市民・事業者活動の支援

### 施策2 処理・処分計画

- 2-1 適正処理及び処分量の低減
- 2-2 現有施設の廃止

### 施策3 不法投棄・非常時の対策

- 3-1 不法投棄対策等の実施
- 3-2 非常時のごみ処理体制の構築

# 06 計画目標

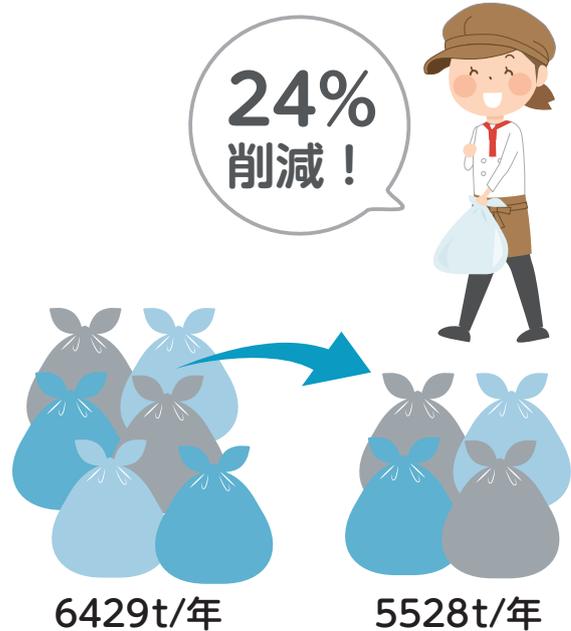
## ① 1人1日当たりの家庭系ごみ排出量

令和 8 (2026) 年度 (中間目標) : 588g/人・日  
令和13(2031) 年度 (計画目標) : 570g/人・日  
令和元年度比で 5%削減



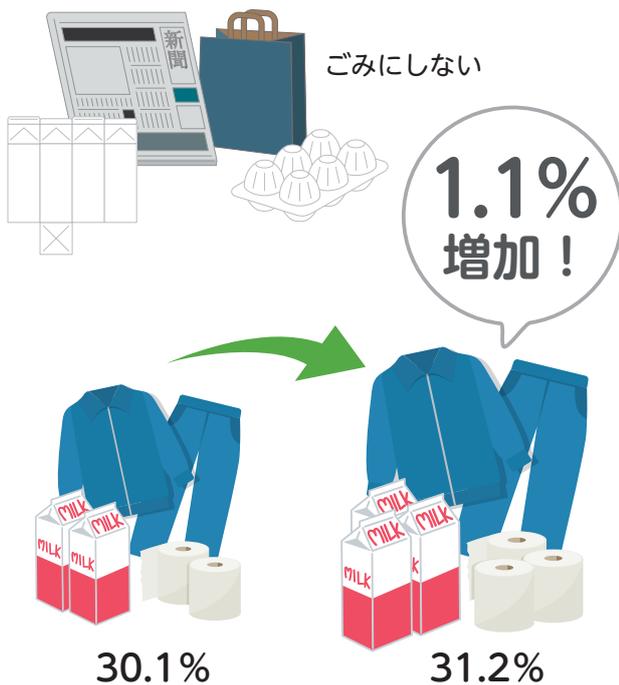
## ② 事業系ごみ排出量

令和 8 (2026) 年度 (中間目標) : 5,979 t/年  
令和13(2031) 年度 (計画目標) : 5,528 t/年  
平成28年度比で24%削減



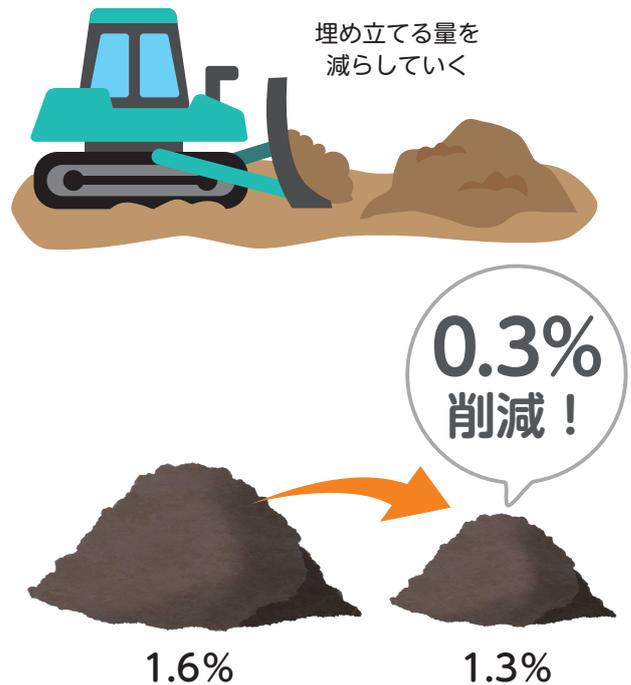
## ③ リサイクル率

令和 8 (2026) 年度 (中間目標) : 30.1%  
令和13(2031) 年度 (計画目標) : 31.2%



## ④ 最終処分率

令和 8 (2026) 年度 (中間目標) : 1.3%  
令和13(2031) 年度 (計画目標) : 1.3%



## 家庭系ごみに関する3Rの取り組み

## Reduce (リデュース)

## ◆ 食品ロスの削減

- 必要な食材を必要なだけ購入しましょう。
- 「てまえどり<sup>※</sup>」を実践しましょう。
- 生ごみの水切りを心がけましょう。

- 毎日のご飯を食べることで食品ロスの削減に貢献します。



※てまえどり：賞味期限が近い手前のものから選ぶこと。

## ◆ プラごみの削減

- マイバッグ、マイボトルを使いましょう。
- 使い捨てプラスチックを使わないよう心がけましょう。
- ばら売りや詰め替え用品を選びましょう。

- 外出時はマイボトルやマイバッグを持ち歩きます。



## Reuse (リユース)

## ◆ 中古品・レンタル商品の利用

- リサイクルショップ等を利用しましょう。
- サブスクリプション(定額制)を活用しましょう。

- まだ使えるものはリサイクルショップやフリマアプリを活用します。



## ◆ くり返し、長く使う

- 長く使えるものを選んだり、衣服や家具を修理して使用しましょう。

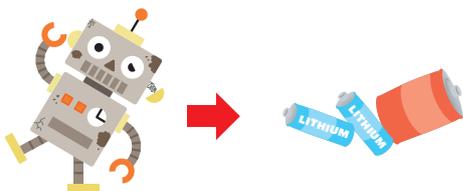
- おもちゃ等も修理して長く利用します。



## Recycle (リサイクル)

## ◆ 分別の徹底

- 「家庭の資源物とごみの分け方・出し方BOOK」にしたがって、ごみを分別しましょう。
- 雑がみ等は分別して資源化しましょう。



- おもちゃ等は、電池を抜いて捨てます。

全国でリチウムイオン電池やスプレー缶が原因の火災が発生しています。

## ◆ ごみの出し方

- 収集日を守って朝8時までに、ごみ集積所に出しましょう。



- **!** カラス被害や持ち去り等を防ぐためごみは当日の朝に出しましょう。

# 3R とは

3R(スリーアール)は Reduce(リデュース)、Reuse(リユース)、Recycle(リサイクル)の3つのRの総称です。Reduce(リデュース)は、ものをつくる時に使う資源の量を少なくすることや廃棄物の量を少なくすること。Reuse(リユース)は、使用済のものやその部品などを繰り返し使うこと。Recycle(リサイクル)は、廃棄物などを資源として有効利用することです。

## 事業系ごみに関する3Rの取り組み

### Reduce(リデュース)

#### ◆食品ロスの削減

- 小盛りメニューの提供や持ち帰り希望者への対応を積極的に実施しましょう。
- 量り売り等を実施しましょう。



#### ◆ペーパーレスの推進

- 過剰包装をせず、簡易な包装を行きましょう。
- 再生紙や裏紙を使用しましょう。



### Reuse(リユース)

#### ◆長く使える製品の設計

- リサイクルしやすい製品や長寿命の製品の設計等を心がけましょう。



#### ◆長く使える製品の利用

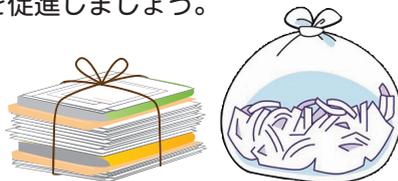
- 材料の仕入れ時はくり返し使える容器を選択し、ダンボール等の再利用に努めましょう。
- 再生品の利用や社内での再利用に努めましょう。



### Recycle(リサイクル)

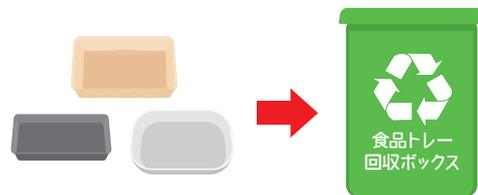
#### ◆分別の徹底

- OA用紙や紙箱等の雑がみの分別をしましょう。
- 複数のごみ箱を設置し、ごみの分別を促進しましょう。



#### ◆積極的な自主回収

- 製造・販売等を行った製品等は可能な限り自主的に引き取りましょう。



### その他の取り組み

#### ◆排出者としての責任

- 事業活動によって排出した廃棄物は、自らの責任において適正に処理・処分しましょう。



#### ◆従業員に対する意識高揚

- 従業員に対して、ごみの減量、資源化に関する意識高揚を図りましょう。

